

目 次

文化経済学会＜日本＞2026 年度研究大会

《凡例》

各発表の討論者については、討論者氏名末尾の上付き数字と発表タイトル末尾の上付き数字を参照してください。

表示例)

①－A 文化価値と文化財

●座長：阪本 崇 ●討論者：清水 裕^①

タイトル	発表者
文化財まちづくりにおける矜持遺産の布置と市民 ^① ・トラスト文化財の提案を通した持続可能なまちづくろいに関する研究 ^①	藤原 恵洋

分 科 会 ①

1-A 文化統計・計量分析

●座長：牧 和生 ●討論者：牧 和生^①／奥山 尚子^②／米屋 尚子^③

タイトル	発表者	頁
K-POP におけるランダム商法と消費者の購買心理 ^①	安橋 正人	20
デジタル時代におけるテレビ放送産業の構造変化と持続可能性 —プラットフォームの価格戦略— ^②	西田 有希子	22
「演劇等鑑賞者」の鑑賞頻度別分析 —社会生活基本調査の匿名データを用いて— ^③	坂部 裕美子	24

1-B 文化資本・教育

●座長：小林 真理 ●討論者：佐藤 良子^{①,②}／小林 真理^③／阪本 崇^④

タイトル	発表者	頁
文化施設における教育普及活動の歴史的変容 ^①	谷口 彩	27
美術系大学進学者の出身背景及び卒業後の状況について ^②	井上 智晶	29
運営費交付金削減が国立大学図書館の生産効率性に与えた影響 ^③	谷口 みゆき	31
文化社会資本と人的資本の質 — 芸術文化投資を組み込んだ政府支出最適配分モデル — ^④	八木 匡	33

分 科 会 ②

2-A 文化行政と社会

●座長：友岡 邦之 ●討論者：三浦 宏樹¹／萩原 雅也²／中村 美帆^{3,4}

タイトル	発表者	頁
1970 年大阪万博後の地方文化イベント実施にみる合理性 ¹	田中 淳士	39
A I 技術の急速な発展による労働、市民生活への影響と文化政策の課題 —事務労働の大きな部分を占める企業、団体等の総務管理業務、会計業務等を主に ²	本田 洋一	41
文化のグローバル公共財概念の検討 ³	朝倉 由希	43
公立図書館の位置づけの変遷に関する一考察 ⁴	岩井 千華	45

2-B 文化・芸術と地域

●座長：竹谷 多賀子 ●討論者：熊倉 純子¹／小泉 元宏²

タイトル	発表者	頁
祇園祭・大船鉾復興の実態分析 ——多様なステークホルダーによる文化プロジェクトの事例研究—— ¹	飯塚 まり	48
地方画商の成立と歩み—日本画家の書簡と聞き取りから— ²	鳥羽 都子	50

2-C 歴史・思想とメディア

●座長：太下 義之 ●討論者：太下 義之¹／後藤 和子^{2,3}／野田 邦宏⁴

タイトル	発表者	頁
メディアアート・デジタルアートは誰がどのように支えてきたのか？ ¹	岡田 智博	53
戦後日本における無形遺産の実践と継承における可変性を考える —UNESCO 無形文化遺産・無形文化財の「民族芸能」に注目して— ²	劉 致遠 池田 真利子	55
アダム・スミスの音楽論—道徳と社会の調和— ³	三澤 杏亮	57
文化・芸術の「物質圏」と「経済圏」における自己触媒的連関と分類：生存と創発を巡る四領域比較を通じて ⁴	泉志谷 忠和	59

*発表内容は予告なく変更されることがございます